Vol. 34　R6.10.15

牛山教授による「洪水・土砂災害勉強会」を開催

　１０月１５日（火）、静岡大学防災総合センターの牛山教授をお迎えして洪水・土砂災害の勉強会を開催しました。この勉強会は近年頻発する洪水や土砂災害の傾向や対策についての見解を拝聴するもので、立山砂防事務所が主催しました。
　講演の様子はオンラインにより北陸地方整備局をはじめ、富山県内の河川・砂防関係の行政機関にＷｅｂ配信が行われ、多数の河川・砂防の関係者に聴講していただきました。

日　時：令和６年１０月１５日（火）
会　場：立山砂防事務所　２階会議室
講　師：牛山 素行 氏（静岡大学　防災総合センター教授）
演　題：「洪水・土砂災害は起こりうることが、起こりうる場所で」
聴講者：北陸地方整備局および富山県内の河川・砂防行政機関の関係者
　　約１００名（Ｗｅｂ配信による聴講を含む）

牛山 素行（うしやま もとゆき）氏 プロフィール

- 長野県生。信州大学農学部卒業。
- 東京都立大学客員研究員、京都大学防災研究所助手、東北大学災害制御研究センター講師、岩手県立大学総合政策学部准教授、静岡大学防災総合センター准教授などを経て、2013年より現職。
- 博士（農学）、博士（工学）。専門は災害情報学。
- 風水害、特に豪雨災害を中心に、人的被害の発生状況、災害情報の利活用、避難行動などの調査研究に取り組む。
- 内閣府、国土交通省、気象庁、総務省消防庁、地方自治体の各種委員を歴任。日本自然災害学会副会長。

勉強会の様子（立山砂防事務所）

勉強会の様子

静岡大学
牛山教授

石田事務所長より
講師の紹介

Web配信の様子

質問TIMEでは活発な意見が交わされました

勉強会講演概要

- 「流れる水に近づかない」ことが大切であり、少しでも高い所へ移動する考え方が重要。
- 「もろい地質」という表現が使われているが「丈夫な地質」はない。
- 「低地」の再認識が必要。標高に関係なく川と同じ高さは「低地」であり、洪水の可能性がある。
- 「山は崩れるもの」「川は溢れるもの」とした認識が今後重要であると言われている。
- ハザードマップの作り方、見方に注意が必要。着色がされていなくても危険である場合がある。